

# インドネシアの金利引き上げについて

2013年7月16日

インドネシア中銀は7月11日(現地時間)の政策決定会合で政策金利を0.50%引き上げて6.50%とする決定を行いました。0.25%の利上げにとどまるとの見方もありましたが前記の通りの引き上げ幅となりました。同実施後もインドネシアルピアは落ち着いた動きとなりました。なお、同時に預金ファシリティも同幅引き上げられました。

## 《政策金利引き上げの背景》

同中銀は利上げの理由として、①インフレ圧力の抑制、②為替レートの安定を挙げています。

①インフレについては、同国では燃料費補助金の縮小が決まりこの影響で同圧力が高まるとされています。この圧力を緩和し目標レンジ内に誘導させるため利上げは必要な措置と考えられます。

②ルピアは米国のQE3縮小開始スケジュールが示されたことで資本引き揚げの動きもみられ、主要通貨に対する為替レートが大幅下落しています。同中銀はインドネシアのファンダメンタルズに沿った形でインドネシアルピアの為替レート安定化を図るとともに為替市場へ適切な流動性供給を続ける意向を示しています。

## 《今後の見通し》

景気については、2013年の世界経済は減速傾向にあり、先行き不透明感が覆っていることなどを理由に、同中銀はインドネシアの2013年の経済成長率を5.8~6.2%と前回予測(6.2~6.6%)より下方修正しました。中国をはじめとする新興国の成長率鈍化、資源価格の下落などを受けた外需の低迷や輸入の増加により2013年の第2四半期、第3四半期とも成長率は5.9%程度としています。しかし第4四半期には反発し2014年には6.4~6.8%になるとしています。

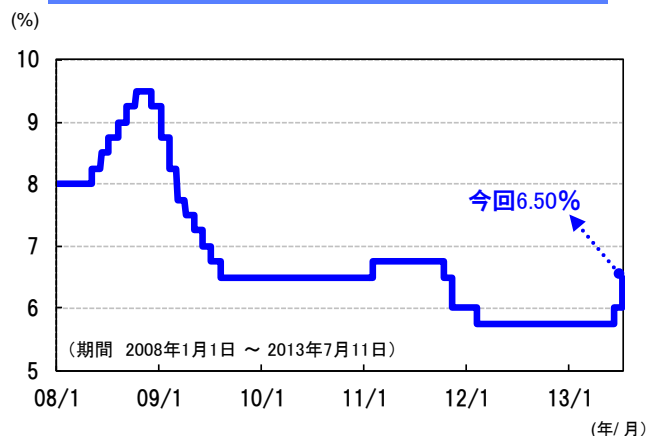
燃料価格の上昇がインフレを押し上げますが、これは一時的な現象であり3カ月程度で沈静化に向かうとしています。インフレ率は2013年7月にピークを迎え、8月からは低下に転じ、9月には収束すると予想しています。

為替レートについては、米国QE3の縮小観測を巡る思惑から5月下旬以降、インドネシアルピアが主要通貨に対し大幅に下落しています。しかし同国の外貨準備高は高い水準を維持しており、金融システムは損なわれていません。政府・中央銀行は為替レートがファンダメンタルズから乖離しているとみなし自国通貨買いの為替介入を続けています。QE3縮小スケジュールが示されやや過剰とも思えるインドネシアルピアに対する売り圧力が高まりましたが、下落余地も徐々に限定されてくるとみられます。

今回の利上げはこのようなインフレ期待を抑制し、インドネシアルピアへの信頼回復を狙ったものと考えられます。政府・中央銀行はこれらの影響を注視しつつ、必要に応じて対応をとっていくものと考えられます。

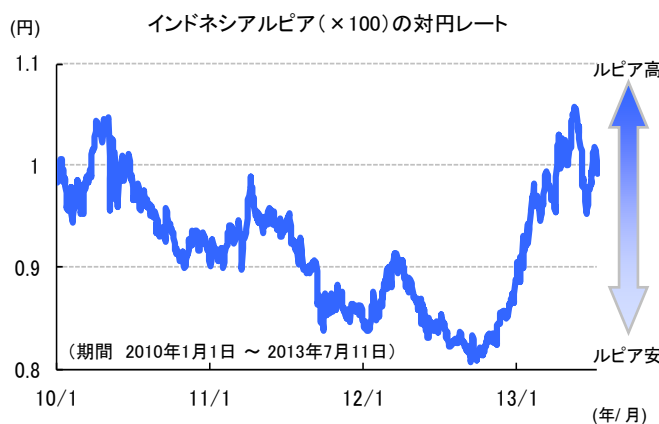
- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

## 《インドネシアの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

## 《インドネシアルピアの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成